

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(187)

薬剤耐性菌

COVID-19に對しさまざまな予防ワクチンが開発され、結果的にメッセンジャーRNA(mRNA)ワクチンが世界中で使用されている。2021年、mRNAワクチン は9兆円を超える世界市場を突如形成し、世界の医薬品市場の約6%を占めるに至った。mRNAワクチンがパンデミック後にも市場を維持・拡大できるかは未知数だ。しかし、mRNAワクチンは将来起こりうるパンデミックでも一定の存在感

が、徐々に事態が深刻 注目を集めた。AMR 症の基礎研究者が減少 化しているのが、既存 による世界のGDP損 失が3・2%(30年)、 が生まれづらい状況と 剤耐性菌(AMR)だ。 3・8%(50年)に達 した。後者の推進は、 11年、世界保健機関 するとの報告もある。 抗菌薬の使用量削減に を示すと思われる、巨天 (WHO)は世界中でA AMR対策は、新規 つながる。

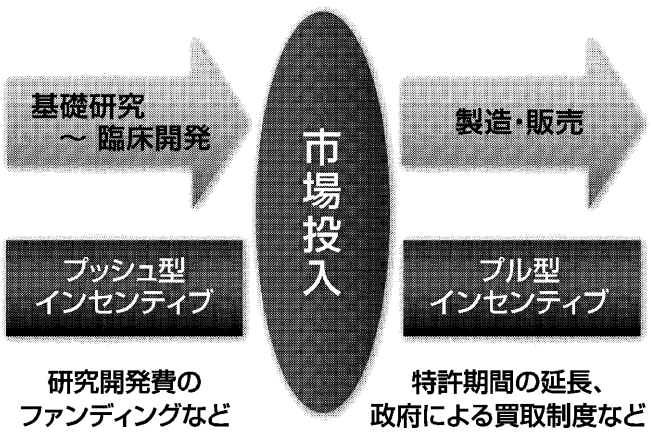
市場を形成しうる。が ンや自己免疫疾患など への展開も含め、これ からアカデミアや企 業で活発に研究開発が なされるであろう。 一方、パンデミック のような爆発的な健康 被害は発生していない 予測を発表し、大きな 0万人(50年)に急増 する抗菌薬が1970年 を期待できない。多く 50万人(50年)に急増 する抗菌薬が1970年 を期待できない。多く 50万人(50年)に急増 する抗菌薬が1970年 を期待できない。多く

抗菌薬開発採算性確保へ

科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター 辻真博

東京大学農学部卒。ライフサイエンスおよびメディカル関連の基礎研究(生命科学、生命工学、疾患科学)、医療技術開発(医薬品、再生医療・細胞医療・遺伝子治療、モダリティ全般)、医療データ、研究環境整備などさまざまなテーマを対象に調査・提言を実施。

新規抗菌薬開発に対するインセンティブ付け



場投入が停滞してい かし、新規抗菌薬の市 場投入に成功した企業 には、売り上げが伸び ず、破産に追い込まれ 入に成功すると報奨金 が付与されるマーケッ トエントリワード などの導入が進む。 欧州では、使用量と 関係なく政府が買い取 るサブスクリプション モデルが導入された。 わが国でも、23年度予 算案で、プル型インセ ンティブのモデル事業 が計画されている。

AMR対策は世界共 通の課題だ。わが国を 含む各国が、プッシュ 型/プル型インセンテ ィブ設計の試行錯誤を 進め、国際協調しつつ 最適なインセンティブ の枠組みの確立・実装 を進めることが望まし い。(金曜日に掲載)